

平成29年度 高校生と市長のふれあいトーク記録票(荒川高等学校)

と き: 10月28日(土) 8:40 ~ 9:40 会場: 荒川高等学校体育館 参加生徒: 110人(男40人 女70人) 学校職員 19人

市役所職員5人 市長 合計135名

※ふれあいトークで発言された内容を抜粋した記録してください。

学校名	NO	発言内容	答弁者	答弁内容
荒川高校	1	仕事をやっていて楽しいと思ったことは何ですか。	市長	仕事をやっていく中で、相手から「ありがとう」と感謝されたり、笑顔が見れたりします。そういう時って非常に喜びというか、自分がやった行いに対して相手がしっかりと応えてくれる、感謝の意を表明してくれるところが喜びなのではないかと思っています。ですから、他の仕事でも同じことが言えるかと思いますが、相手から喜ばれる、相手から感謝されるということが全ての場面で喜びにつながるとしています。
荒川高校	2	村上市に新幹線を通してほしいと思います。新幹線が来れば観光客も増えて、村上市もより良い方向へ発展していくのではないかと思いますし、電車の本数も増えて、生活環境が豊かになるのではないかと思います。	市長	大賛成です。これからの季節、風が強いとすぐ停まってしまい、不便となります。新幹線は中越大地震で脱線しましたが、それ以外は停まったことがないです。どれだけ暴風雪であったとしても停まらないものです。ですから日本海側に新幹線が通れば、公共交通という意味では非常に有利になるとしています。現在、羽越本線を高速化しようという動きを進めています。平成30年になると新潟駅で新幹線と在来線が同一ホーム内での乗換えができるようになります。また今年から、羽越整備新幹線を早期に実現しようという取組にステップアップさせました。その先頭に立って引き続き頑張っていきたいと思っています。ご提言ありがとうございました。
荒川高校	3	土日は休みですか。	市長	市町村長は、常勤の特別職で土日休みはありません。この職種には、勤務時間というもの存在していないそうです。ですので、勤務時間がなければ、土日休みではありません。曜日の感覚がない形で仕事をしています。
荒川高校	4	バスの本数を増やしてほしいこと、高速バスで夜行便も作ってほしいです。	市長	交通事業者も民間企業ですので、赤字で運行するわけには行きません。これまで路線の沿線の自治体及び県と補助して路線を維持してきましたが、今後将来に渡って維持できなくなるという判断で昨年の9月に高速バスが廃止となりました。その代わりとなるサービスということで、市では、予約型の高速デマンドバスというものを始めました。バス路線を増やすということも先ほど言ったとおり、利益が上がらなければ、民間事業者はできないと思います。行政が少し補助して運営ができるレベルまで持っていくことを現在もしているのですが、それも将来に渡って持続できるかというとなかなか難しい。このため地域連携の中でボランティアの運行などを視野に入れています。あともう一つ視野に入れているのが自動運転です。今後自動運転というのは地域に根付くと思っていますので、皆さんの時代には、それがごく当たり前に出来上がっているところまでステージを持っていきたいと考えています。
荒川高校	5	市長さんは、普段どのような仕事をされているのですか。	市長	休みは基本ないので、土日でもこうして皆さんとお会いしたり、事業・イベントに参加したりして、話を聞いたり、話をさせていただいたりしています。平日もそのように事業やイベントに参加することもあります。市役所の各課との打ち合わせや会議などの参加したりしています。タイトなスケジュールで大変ですが、体に気をつけていきたいと思っています。
荒川高校	6	今まで市長をやっていて、つらかったことはありますか。	市長	一人ひとりの考え方があってと思います。村上市にも62,000人を超える方がいますので、いろんな考え方があり。極端に言うと真っ向から反対の考え方を示される方もいます。そのような考え方を整理しようとしたときに、なぜ自分ひとりで解決できないのだろうと考えたときにつらいと感じます。また各地区の区長会等から要望を様々ないただきますが、すべてできるわけではありません。ですので、すぐにできないジレンマというものを感ずることがあります。ただ、できないにしても一つ一つに対して向き合うということも大切だと感じていますので、いただいた要望等にはしっかりと対応をしていく、その計画を含めて話をしていく、その中で相手と信頼関係を築いていくということが実は大切だと思っています。ただ、市民の方に我慢をさせるということがいくつあるのか、つらい部分かと感じています。

学校名	NO	発言内容	答弁者	答弁内容
荒川高校	7	学生のときにやっておいて良かったなと思うことはありますか。	市長	やはり、仲間づくりだと思います。良かったことも、悪かったことも含めて自分のことを知っている友達がいる、共通の趣味などを友達と一緒に経験ができたということが非常に良かったと思います。それが今でも力になっています。是非皆さんも何でも話せる仲間との関係を人生の中で、築けたら良いのではと思っています。
荒川高校	8	私たちの年代の子や小さい子が遊べる施設がほしいです。	市長	皆さんの世代が必要とするものもそうなのですが、その中でも自然に親しむものやアミューズメント性が高いものなどショッピングもできるような施設も含めてのことなのかと思います。現在、屋内エリアと屋外エリアそれぞれで遊べる施設を具体的に検討していますので、楽しみにしておいてください。